

本日の
プログラム

新会員卓話 新宮賢治 会員

カーボンニュートラルに向けた北海道電力の取り組み

北海道電力(株)代表取締役副社長執行役員 瀬尾英生 氏

本日はカーボンニュートラルに向けた弊社の取り組みや泊発電所の再稼働に向けた対応についてお話しさせていただきます。

ほくでんグループでは、2050年の北海道におけるエネルギー全体のカーボンニュートラルの実現に向けて、発電部門は「2030年にCO2排出量を2013年度比50%以上低減」の達成に加え、長期的に「CO2排出ゼロ」を目指していきます。北海道は再エネの適地として、次世代半導体工場や大規模データセンターなどの計画も進んでいますので、あらゆる手段を総動員して供給・需要の両面にわたる取り組みを進めてまいります。

ほくでんグループが開発する再エネ発電は、「2030年度までに30万kW以上増」を目指し、新規地点の地熱開発調査や風況調査を行っています。弊社が所有する水力発電(約170万kW)は貴重な水資源を活用する再エネ発電であり、リプレース(設備更新)工事やリパワリング(出力増強)工事により設備の更新を進めています。地熱発電では森地熱発電所(2.5万kW)で発電に利用した後に、地中に戻す熱水の熱エネルギーを活用して、森バイナリー発電所(0.2万kW)が発電を行い、熱を有効活用しています。このほか、技術協力をしている石狩湾洋上風力発電所(11.2万kW)は今年1月から営業運転を開始しており、建設中の木質チップを燃料とする苫東バイオマス発電所(5万kW)は2025年4月に運転開始の予定です。

水素・アンモニアの利活用に関する取り組みとして、昨年5月に苫東厚真発電所の隣接地に1,000kW級の水素製造装置の運用を開始するほか、苫小牧西部エリアでは出光興産様、ENEOS様と共同で国内最大級(10万kW級)のグリーン水素製造装置のプラントを建設し、地域の工場などにパイプラインで供給するサプライチェーンの構築を目指しています。また、燃料アンモニアの活用、アンモニア供給拠点の構築に向けた検討を進めています。

火力発電の脱炭素化に向けた取り組みでは、石油資源開発様、出光興産様、弊社の3社で、二酸化炭素(CO2)を分離・回収して地中などに貯留する「CCS事業」の実現性調査を進めており、2030年度までにCCS事業を立ち上げることを視野に取り組んでいます。

地域の皆さまと一緒に進めている取り組みでは、再エネ余剰電力を有効活用する再エネアグリゲーション、ZEB(ネット・ゼロ・

エネルギー・ビル)コンサルティング、ESP(エネルギー・サービス・プロバイダ)事業、ブルーカーボン(大気中の二酸化炭素が海水に溶解込み海洋植物に蓄積される炭素)事業、エネルギー・マネジメント・システムの活用、完全人工光による閉鎖型植物工場事業などを進めています。引き続き、地域の皆様と脱炭素化に資する取り組みを進めてまいります。

泊発電所の再稼働に向けた原子力規制委員会による審査では、敷地内断層、基準地震動、防潮堤に関する説明を終えており、残りの基準津波、火山、耐津波設計方針について、今年10月上旬までに説明を終えることを目指して、総力をあげて取り組んでまいります。防潮堤は2月の審査会合において基本構造の説明を終えたことから、3月28日より防潮堤の設置工事を開始しています。この防潮堤は高さを海拔19メートルとし、地中の強固な岩盤に直接支持させる岩着支持構造として、3年程度での完成を目標とし、さらに早い完成を目指して取り組んでまいります。世界最高水準の安全性に向かって、自らの活動の評価・改善を重ね、皆さまから信頼していただける発電所を目指して、不断の努力を重ねてまいります。

ほくでんグループでは経営環境の変化を踏まえまして、低廉な電力の安定供給、新たな大規模需要への対応、気候変動対策、地域課題の解決、そして持続的な企業価値の向上に向けた取り組みを進めてまいります。弊社事業に対しまして、皆さまのご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日は卓話の機会をいただきまして大変ありがとうございました。



■本日のロータリーソング

奉仕の理想

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー会長：ゴードンR.マッキナリー

